

「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



“読み聞かせを通して子どもたちと
気持ちがつながります”

高校生の頃、東海村高校生会に所属していた私は、「母と子のサロン」という0歳児の子を持つ母親向けのイベントに参加しました。震える手で子どもを抱っこすると、こちらの感情を感じ取ったように不安そうな表情をしていました。しばらくして私の緊張が落ち着いてくると、赤ちゃんも慣れてきたのか、目を合わせた「ンマ、ンマ」と声を出して話し掛けたりしてくれました。うれしくなった私は「いないいないばあ」の絵本を手に取り、その子に読み聞かせました。読み終わると絵本が気に入ったのか、絵本をたたくて「もう一回」の合図。何度も何度も読み聞かせるう

ちに、その子と私がつながった感覚を味わいました。この経験がきっかけで、保育士への憧れや自分の進みたい道が決まったのかもしれない。保育士になり、幼稚園への配属が決まり、4歳児18人の担任になりました。幼稚園という「社会」に出て不安いっぱいの子どもたち。集めて話をしようとしても聞いてくれず、好きなところで遊んでいたり、泣いていたり…。これからの保育に見通しが持てず不安になった時、ある子が「これ読んで」と1冊の絵本を持ってきてくれました。読んでいるうちに周りの子が集まりだし、最後には全員が見てくれたとき、絵本を通じて自分と子どもたちがつながったことに気付き、高校時代の体験を懐かしく思い出しました。絵本は読み手と聞き手を結んだり、物語の世界に連れていってくれたり、図鑑のように比べるツールとなったりと、さまざまな顔を見せてくれます。私にとつての絵本は、自分の進むべき道を導いてくれた教科書のようなものだったのかもしれない。

舟石川保育所

小川 洋明 保育士

村内等で行われた活動やイベントを紹介します

ず〜むあっぷ「まちの風景」



夜道を歩くときは、反射材で身を守ろう 東海村反射材着用推進リーダー委嘱式

6月17日、高齢者クラブ連合会役員・単位クラブの会長を含む34人が、東海村反射材着用推進リーダー（通称：キラリリーダー）としての委嘱を受けました。夕方以降、歩行者には車のライトが見えていても、運転手からは歩行者が見えないことがあるため、反射材などで歩行者自身が車にPRすることが大切です。キラリリーダーは反射材を率先して身に付けて自身の身を守ることで、その有効性を多くの人に伝えていきます。



地域のチカラで犯罪のない明るい社会へ 第69回「社会を明るくする運動」

5月28日、東海保護司の会と東海村更生保護女性会が合同で、第69回「社会を明るくする運動」推進に対する内閣総理大臣メッセージを村長に伝達しました。この運動は、犯罪・非行のない地域をつくるためには何をすべきか一人ひとりが考え、犯罪・非行の防止と、罪を犯した人の立ち直りについて、それぞれの立場において力を合わせ支援しようとするものです。村では今後も、安全・安心な地域社会づくりに取り組んでいきます。